

第八項 井伊氏のこと

井伊谷三人衆の各論に入る前に、三人衆が仕えた井伊氏について概要を述べることにした。
井伊氏の略系図は次の通りである。

○共保——共家——共直——惟直——盛直——良直——弥直——泰直——行直——景直——忠直——
直氏——直平——直宗——直盛——直親——直政——直孝——直澄——直興——直惟——直章——
直中——直弼

井伊共保
発祥の井戸

竜潭寺（静岡県引佐町）の南、現在は水田の中に、井伊共保公出生の井戸と称せられる所がある。
その案内板に記載された文章の要点は、

昔は地蔵寺の井戸であった。村櫛城主藤原鎌足公十二代の後胤、藤原共資公、世嗣となるべき男子に恵まれず、地蔵寺に育ててもらおうと、寛弘七年（一〇〇五）元旦の夜半、生まれ子をひそかに井戸の傍におく。

七才に成長した時、村櫛城へもらい受けた。これが共保で、地蔵寺がなつかしく、井伊谷に帰り三岳城を築き、姓を井伊と改めた。

共保から十三代を経た井伊谷城主井伊信濃守直盛は、桶狭間の戦いで戦死したので、後は一族の肥

後守直親が継いだ。ところが氏真の被官、小野但馬守の讒言にあい、直親は朝比奈備中守の為に横死した。

直親の子が万千代である。万千代も直親と共に討たれる所であったが、新野左馬助の尽力により難を免れ、二歳の時より左馬助に養育された。左馬助は引間城の戦いで討死し、五歳まで左馬助の妻に養われた。

氏真が万千代を誅せようと尋ねていることがわかったので、左馬助の妻が、左馬助の叔父の浄土宗の僧に頼み、万千代を出家させようと、その僧と他国に出たということにしたので、一先ず万千代殺害の計画は中止になった。井伊家の系譜には、万千代母子は一時三州鳳来寺に逃れたと記されている。南設楽郡誌は、武徳編年集成・後風土記により、永禄十一年、今川氏没落の際、この僧、深珍は駿河の混乱を恐れ、万千代を伴ない、三河国鳳来寺に逃れた、後、左馬助の妻が松下源太郎信景に再婚したので同家に引き取られた、と記している。

万千代は天正三年二月、徳川家康に見出されるのであるが、このことにつき家忠日記増補追加には次のように記されている。

十五日、大神君浜松ノ城下ニ御放鷹アリ、于時路辺、大神君井伊万千代（于時十五歳兵部少輔直政ト号ス）ヲ見玉、誰家ノ童子ソト問セ玉フ、井伊信濃守直満カ孫、肥後守直親カ愚子也。継父松下源太郎カ好ミニ依テ御城下ニ執居スルノ由ヲ達ス。台聴驚カレ、即日万千代ヲ城ニ召テ摩下ニ属ス。

万千代鳳来寺に
逃れる

竜潭寺の墓

井伊谷ハ元祖曆代ノ旧領タルニ依テ、萬千代ニ賜フ、井伊谷三人衆及与力ノ士ヲ附ラレ、又、木保清左衛門尉ヲ萬千代ニ附シメ玉フ。

とあり、ここに井伊家と井伊谷三人衆との主従関係が成立した。

萬千代は数々の戦功を立て、後に徳川四天王の一人に数えられるに至った。

井伊谷の竜潭寺境内の一角には井伊家の墓地があり、中央に自浄院殿と龍潭寺殿との碑が建てられ、左右に積上五輪十一基が並ぶ。中央の二基に次の文字が見える。

寛治癸酉年八月拾七日逝去井伊氏元祖共保公墓

明治四拾貳年五月拾九日井伊直忠改造之

自浄院殿前備中大守行輝寂明大居士神儀

永禄三庚申五月拾九日逝去井伊氏直盛公墓

明治四拾貳年五月拾九日井伊直忠改造之

龍潭寺殿前信州大守天運道鹽大居士神儀

竜潭寺伝によれば、竜潭寺はもと八幡山地蔵寺と称した。共保が養われたのはこの地蔵寺であった。元中二年宗良親王をここに葬り、寺号を冷湛寺殿と改め、永禄三年井伊直盛公を葬り、公の法名龍潭寺殿にちなみ寺号を竜潭寺と改めたという。

第二節 鈴木長門守重勝とその子孫

第一項 鈴木氏系譜

鈴木氏の系譜で、私が拝見出来たのは次の三本である。

- 1 水戸藩家老 従五位下鈴木重郷編纂「水戸鈴木家系譜」——水戸市大工町 水戸鈴木本家 鈴木重一氏所蔵本。
- 2 「山吉田鈴木氏系譜」——山吉田鈴木本家当主鈴木武氏が、昭和七年実弟仙次氏に依頼、水戸鈴木本家から借り受け、鈴木武氏が書写したもの。豊橋市鈴木俊男氏が、水戸鈴木本家で拝見したのと同じと考えられる。この写本は、第二次世界大戦の折は満光寺に預けておいたので焼失を免れた。山吉田鈴木武氏所蔵。
- 3 「山吉田鈴木氏系譜寛政本」——寛政三年辛亥春 恵迪 鈴木敏書改「山吉田鈴木氏系譜」
山吉田鈴木武氏所蔵。これは、山吉田の鈴木一族を重点に記述したものであるが、この原本の所在は詳かでない。

右の三系譜に基づいて一覧に便利な系図をつくり、記述を進めることにした。